個別施設計画

（横断歩道橋）

令和８年３月

瑞浪市　建設部　土木課

目　　次

１．老朽化対策における基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・　３

２．新技術の活用方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４

３．費用の縮減に関する具体的な方針・・・・・・・・・・・・・・・　４

４．個別施設の状態等及び対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５

１．老朽化対策における基本方針

瑞浪市が管理する横断歩道橋について、損傷の進行した後に補修を繰り返し実施した場合、修繕・架替えに要するコストが増大となることが懸念されます。

したがって、より計画的な維持管理を行い、限られた予算の中で効率的に維持管理していく取り組みが不可欠となります。コスト縮減のためには、従来の「対処療法型」の維持管理から損傷が大きくなる前に計画的に修繕する「予防保全型」へ転換を図り、延命させる必要があります。

瑞浪市では、将来的な財政負担の低減及び道路交通の安全性を確保するため、横断歩道橋の個別施設計画を策定しました。

１）対象施設

行動計画において、個別施設計画を策定することとした施設対象を以下とします。

陶町歩道橋
路線名:その他市道　水上・猿爪線
建設年月日:1967 年 12 月
橋長:17.1m　幅員: 2.0m　最終点検年度：2017 年度

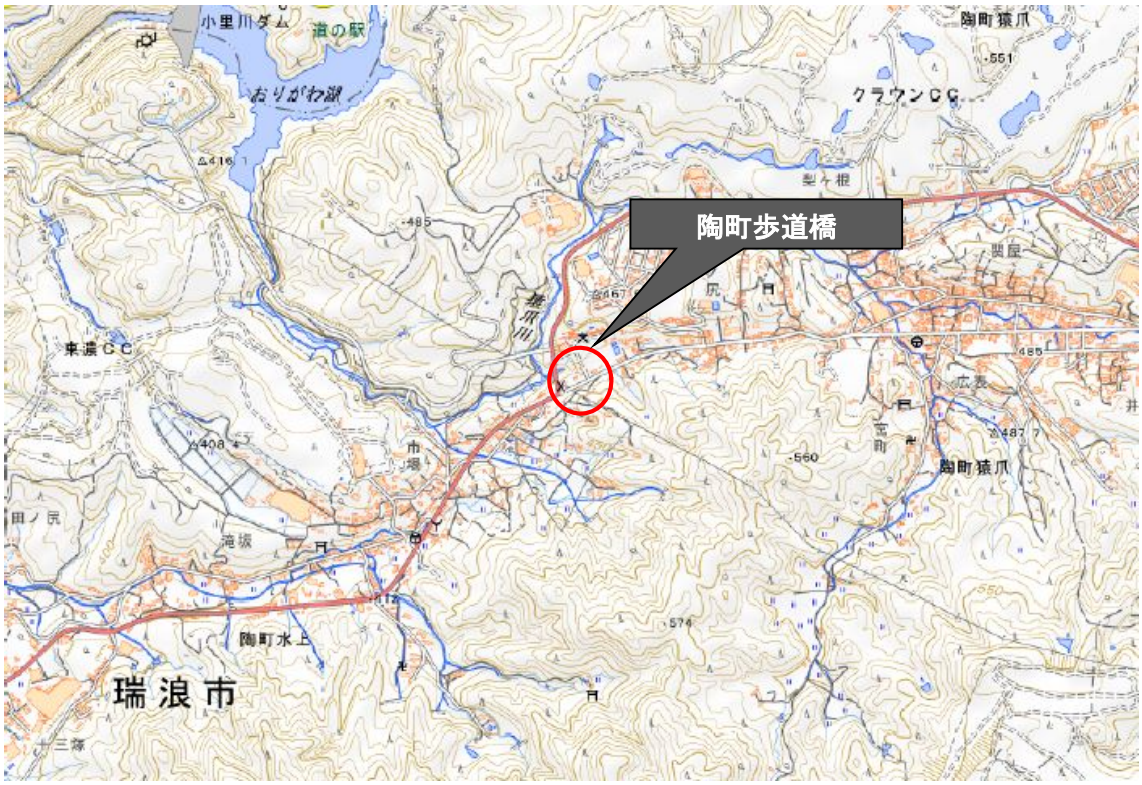


図　陶町歩道橋位置図（出典：地理院地図）

２）健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

（１）健全度の把握の基本的な方針

定期点検や日常的な維持管理によって得られた結果に基づき、横断歩道橋の損傷を早期に発見するとともに健全度を把握します。

（２）メンテナンスサイクルの確実な実行

歩道橋の健全度を把握するために、日常的な維持管理が必要となる。基本的な維持管理は、メンテナンスサイクルを継続的かつ確実に実行します。

２．新技術の活用方針

今後の維持管理において、インフラの効率的な維持管理を可能とする新技術の活用を検討します。活用にあたっては、新技術情報提供システム（NETIS）や点検支援技術性能カタログ等を参考に新技術等の活用を検討し、維持管理の効率化及びコスト縮減を目指します。また今後の目標として、管理する横断歩道橋に新技術を活用し、2031 年までに 1 橋に新技術を活用し、約 10 万円程度のコスト縮減を目指します。

３．費用の縮減に関する具体的な方針

当該施設は、陶小学校のために建設されたが、小学校が廃校となり利用者も激減したこと、また約 60m西側には信号式の横断歩道が設置されていることから、当該施設の撤去を基本方針とします。利用調査や住民との協議を行い、2031 年までに 1 橋について、撤去完了し、維持管理コスト約 10 万円の縮減を目指します。撤去完了までは利用可能とし、維持管理を継続します。

４．個別施設の状態等及び対策

瑞浪市が管理する横断歩道橋について、概ねの次回点検時期及び修繕内容・時期を次頁に示します。

※対策を実施する時期は点検状況や財政状況により変更することがあります。

施設名	路線名	橋長（m）	幅員（m）	架設年度	上部工形式	点検結果		主な補修内容	補修費用	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
						最新点検年次	判定区分			2019	2020	2021	2022	2024	2025	2026	2027	2028	2029
陶町歩道橋	市道水上・猿爪線	17.1	2.0	1967	鋼I桁橋	H29	Ⅱ	根巻きコンクリート嵩上げ工、ボルト復旧工	110				点検			根巻きCo・ボルト復旧		点検	